

事業計画書

平成22年度

自 平成22年 1月 1日

至 平成22年12月31日

財団法人 岩谷直治記念財団

平成21年11月

財団法人 岩谷直治記念財団
理事長 大澤 弘之

事業計画書

(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

本財団は科学技術に関する研究開発ならびに国際交流推進のための助成、奨励などを通して国民の福祉の向上と国際的相互理解の促進を目的として設立されて以来、平成21年12月で36年が経過することになります。

その間、地道な活動ではありましたが、平成21年度までの累計で記念賞35件7,200万円、研究助成585件11億8,654万円、国際留学生研究助成延べ344名4億7,865万円、国際交流187件9,693万円、表現芸術助成を含む人材育成に44件2億1,806万円(平成21年度末累計見込み)と、設立の目的に沿って着実にその役割を果たして参りました。

平成22年度も、これまでに積み重ねられた所産を有効に活用することにより、上述の事業を推し進めて参ります。

収支につきましては、これまでどおり均衡の取れた事業運営に努めます。

事業各項についての概要は次のとおりです。

I 岩谷直治記念賞

本賞の対象は、エネルギー、資源および環境分野における研究と開発で、その業績が広く波及効果をもち社会的貢献度の高いことが望まれる。賞の内容は本賞、賞牌および副賞300万円である。

II 岩谷科学技術研究助成

助成予算金額は3,600万円（200万円/件×18件）、助成対象はこれまでどおり「エネルギー・資源の有効利用を中心とした研究分野」および「環境関連の研究分野」における応用開発などの実用的研究ならびに基礎的研究とする。また、若手研究者、地方大学・私立大学在籍の研究者などへの助成についても充分配慮する。助成研究の成果については研究報告書にて公表する。

III 人材育成

第79回日本音楽コンクールに対する助成を行う。助成金額は500万円。

IV 国際交流

(イ) 国際留学生研究助成金

予算金額は1,890万円とする。

採用人数は10名、支給月額1人15万円、支給期間は従来どおり1年間とし、一つの国に偏ることなく幅広く採用するよう配慮する。尚、国際大学奨学生については4月～6月の3ヶ月間延長する。

(ロ) 留学生研修例会

予算金額は260万円とする。例会4回、研修旅行1回。

(ハ) 留学生学会参加助成

研究発表のために学会に出席する留学生に対して資金援助を行う。

予算金額は60万円とする。

(二) 海外国際会議参加助成

海外で開催される国際会議での発表者に対し資金援助を行う。
予算金額は30万円とする。

(ホ) その他の国際交流

国内で開催される国際会議開催費等を助成する。
予算金額は230万円とする。

V 情報活動

予算額は375万円とする。

- (イ) 財団機関誌「ニーズ」および「研究報告書」の刊行
- (ロ) イワタニ国際奨学生OBに対する研究資料の提供
- (ハ) インターネットによる情報開示およびPR

VI 財産、収支

本年度の収支予算は対前年度比109.7%を見込む。

収入においては基本財産配当収入1億231万円、基本財産利息収入6万円、
寄附金収入1,060万円および運用財産運用収入10万円を見込む。

支出については、各助成事業ならびに投資活動支出および財務活動支出など
のバランスを重視したものとする。

以上